

[話題提供] 琴川ダム湖における効率的なコクチバス駆除方法の検討

[要約] 本格的な駆除を始めて 2 年目となる R3 年度はコクチバスの目視数が減少し、採捕数も減少した。昨年度の駆除の効果が現れ、生息個体数が減少に転じたと考えられた。また、今年度は産卵床や稚魚が全く確認されなかったことから再生産が阻止できたとみられ、来年度のさらなる個体数の減少が期待される。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・谷沢弘将

[分類] 研究・参考

[課題の要請元]

山梨県漁業協同組合連合会、峡東漁業協同組合、食糧花き水産課

[背景・ねらい]

R2 年度より始まった本格的な調査により、5 月中旬頃から 7 月中旬までが効率的に産卵親魚を駆除できること、雌は全長約 20cm から成熟することなどを明らかにした。R3 年度は R2 年度と同等の努力量の駆除を行い、昨年度の駆除の検証と今年度駆除との比較、分析を行うことで、最適な駆除方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 潜水目視調査では 1 回で最大 42 個体のコクチバスを確認した。R2 年度は 104 個体であったことから、半数以下に減少した (図 1)。
2. 水中銃駆除を 23 回、刺網等駆除を 20 回実施し、324 尾のコクチバスを駆除した。R2 年度は 640 個体であったことから駆除数は約半数に減少した。
R2、R3 年度とも最も採捕数が多かったのは刺網 (R2, 547 個体、R3, 305 個体) であり、R3 年度の採捕効率 (CPUE (採捕数/刺網枚数)) は R2 年度と比較して減少した (図 2)。
3. R2 年度は 7 箇所確認された産卵床が、R3 年度は確認されなかった。また稚魚も確認されなかった。
4. 総採捕数が半減したことから、駆除の努力量は適切と推察された。今後は、再生産を許さない事が最も重要と考えられた。一方、駆除は長期化を見込み、持続可能な駆除ができるよう労力を抑え効率化していく必要がある。

[成果の活用上の留意点]

1. 刺網等による駆除を行うためには原則として山梨県知事の許可が必要である。
2. 浅場 (水深 2m 程度) に設置する刺網でも日中の表層水温が 22°C 以下の場合は、有用魚種であるイワナの混獲は避けられない。

[期待される効果]

駆除方法の効率化により、コクチバスによる漁業被害を低減することができる。

[具体的データ]

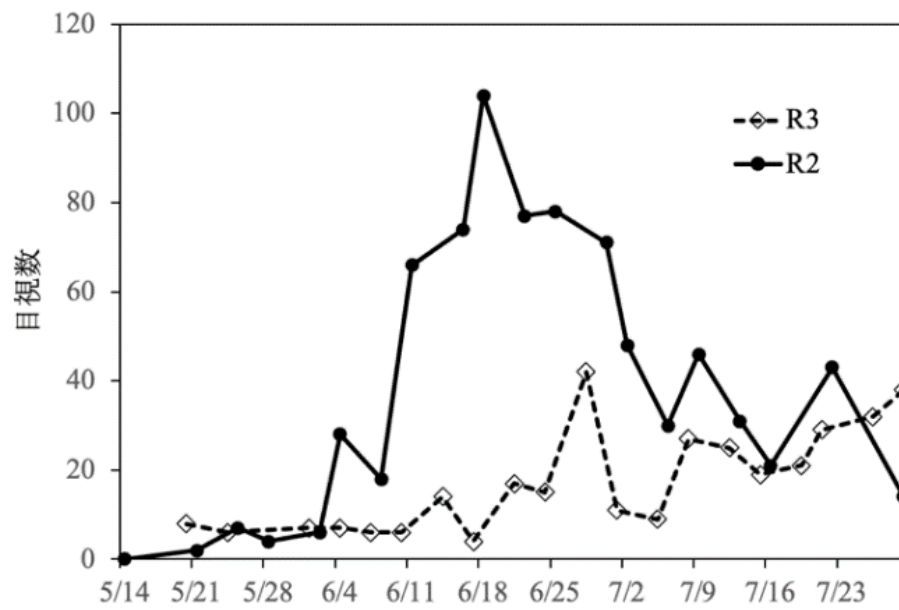


図1 R2、R3の潜水調査によるコクチバス目視数

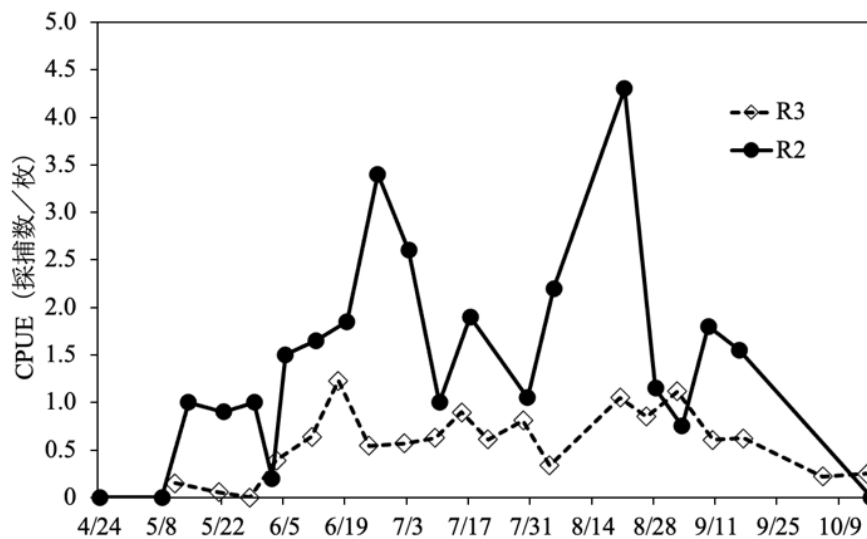


図2 R2、R3の刺網1枚あたりのコクチバス採捕数

[その他]

研究課題名：コクチバス効率的駆除技術の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2021年度～（プレ研究2019、2020年度）
 研究担当者：谷沢弘将、藤原亮